

(別記様式)

平成23年度府立北桑田高等学校美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力を身に付けさせる。 2 専門学科の充実と発展に努める。専門教科・普通教科の学習を通して、生徒の実態に即した適切な指導を行い、基礎・基本の学力の定着を図る。 3 特別活動等を通して、豊かな心をはぐくみ健全な心身の発達を促す。 4 地域に根付く後継者の育成と地域の文化を支える能力の育成を図る。	【成果】 ・教材・授業方法を工夫することで基礎基本を重点に置いた授業展開ができた。 ・卒業生すべての希望進路の実現ができた。 ・専門学科の授業を通して理論と実践を結びつけながら、専門教育の充実が図れた。 【課題】 ・生徒個々の実態を把握することで中途退学の防止を図る ・1年生よりキャリアガイダンスの充実を図る	1 基礎学力に重点を置いた教材の準備や指導方法の工夫。 2 地域との連携を深め、地域に根ざした学校づくりを推進する。 3 生徒全員の就労を実現し、定時制教育を充実させる。 4 学校行事の充実・活性化を進める。 5 課題をかかえる生徒に対し、教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行い、希望進路の実現を図る 6 安心安全な学校づくりを進める。

総合評価 A 十分達成できた。 B ほぼ達成できた。 C あまり達成できなかった。 D ほとんど達成できなかった。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	学校教育目標の具現化に努める。	学校経営改善のための積極的な取組を進めることにより、すべての分野で前進させる。 定期的な教育実践の点検・検証		
	組織体制を機能的にする。	各分掌・担当者・管理職等への報告、連絡、相談の徹底 教育活動全般の組織的・計画的実践 教職員協調・協力の下、教育活動を進める。		
教育課程	生徒及び地域の実態を踏まえ、学校の特色を生かした教育課程を編成する。	学科に応じた特色ある教育課程を編成する。 生徒の進路希望の実現に向けた教育課程を編成する。 前年度の評価・反省に基づく改善を行う。 適切な教育課程になっているか、常に点検をする。		
教科指導	各教科の目標を明確にし、計画的な指導を行う。	年間指導計画に基づき、計画的に指導を行う。 授業公開・授業研究を通して、授業改善に取り組む。 常に、生徒の興味・関心を深める指導を工夫する。		
	学力の充実・向上	各学期末毎に年間指導計画の点検を行い、必要に応じて随時見直す。 常に、生徒の理解度を把握して指導する。 学習習慣を確立させるための手立てを講じる。		
特別活動	計画的で充実したホームルーム活動を実施する。	4年間を見通したホームルーム活動の指導計画を作成する。 担任団でホームルーム経営の相互評価を行い改善・工夫に努める。 ガイダンスの機能の充実の取組を進める。		
	創意工夫した学校行事に取り組む。	文化祭を全校あげて取り組み、成功させる。 学校行事等で一人一人が主役になれる指導を進める。		
	自主的な生徒会活動を目指す。	生徒会活動を通して自主的な力を付けさせる。 各局の活動の見直しと精選を進める。		
進路指導部	地域で働きながら学ぶ中で、自らの適性に応じた希望進路を実現する意欲・能力を育てる。	就労の実態を把握し、不就労生徒への援助・指導を強化する。 希望進路の把握と指導を強化し、全体のガイダンス・個々の指導を充実する。 口丹及び周辺地域の求人の開拓・確保に努める。		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策			
生徒指導	問題事象の未然防止、早期発見ができる体制作りを進める。	各分掌との連携を深め、問題行動の予防や、早期発見に努める。 地域や関係各機関との連携を密に問題行動に対し素早く対処できるようにする。 社会的常識が理解でき、実践できるよう言葉使いや身だしなみなどを指導する。			
	深い信頼関係に基づく人間関係の育成に努める。	相手を思いやる心を育て、いじめを許さない態度を身に付けさせる。 問題事象の具体的指導を通じて生徒自身の内面に迫り、よりよい人格の形成を目指す。 健全な文化に触れさせ豊かな人間性を育成する。 挨拶に始まる日常的な声掛けから、生徒・教師間の信頼関係を深める。			
人権教育	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する。	身近にある差別問題や自分を取り巻く社会の矛盾と人権問題について学習する。 自分たちの進路と人権問題の関わりを明確にし、差別のない明るい社会を切り開く能力を身に付けるための学習を行う。			
		人権教育の科学的認識を系統的に育てるため教科学習の指導を充実する。 教職員が基本的人権や人権問題について認識を深めるために校内研修を実施したり、情報を発信する			
図書視聴覚	図書の充実を図り、読書環境を整え、教育活動に寄与するよう努める。	「読書ニュース」や「おすすめ図書冊子」等を発行し、読書への興味を持たせる。 図書及び図書室の整備を行い本を読みやすくする。 幅広い分野の図書・視聴覚教材を購入する。			
情報教育	円滑な情報教育ができる環境を整備する。	セキュリティ対策に努める。 パソコン及び周辺機器の環境を整え、情報科目を充実させる。 分校ホームページの更新を積極的に行う。			
研究・研修	授業研究等を推進し、教科指導力の向上、生徒の学習意欲を高める研修を行う。	学校の課題にあわせた校内研修を行い、指導力の向上を図る。 公開授業や定通研を通して、指導の充実を図る。 外部講師などにより、研修の充実と工夫を図る。			
健康・安全教育	自らの健康管理能力を高めるために体の健康と心の健康に関する指導をする。	健康・安全に関する教育を計画的に進める。 生涯の健康保持増進につなげる実践的な健康指導の充実 スクールカウンセラーを活用し、充実した教育相談体制を確立する。			
施設・設備管理	施設・設備の点検を行い、安全管理を徹底する。	一般施設・設備及び防災施設・設備の日常点検・定期点検を実施する。 地域や関係機関との連携を密にする。 防災教育等防災教育を計画的に進める。			
農場部	農業に関する専門知識や技術の学習を通して生きる力を身に付ける。	実習を中心とした体験的、実践的な授業を展開する。 チームワーク・コミュニケーション・プレゼンテーションの力を付ける。 個々の生徒の実態に応じた学習内容の工夫をする。			
	地域の発展を考え、実行できる意欲と能力を育てる。	農業クラブ活動を活発なものにする。 地域での農産物の販売を積極的に行い地域からの評価を得る。			
家政科	家庭生活に関連する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う。	学習効果をあげる適切な教材を工夫する。 体験的な学習の機会を設定する。 学習の遅れがでないよう適切に補習を実施する。			
	学習内容を深め、地域の暮らしを見つめ、考え、向上させる意欲を育てる。	福祉施設等の協力を得て地域での実習を実践する。 4年間の集大成として課題研究に取り組む。			

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策			
第1学年部	基本的な学力や生活習慣を身に付け、学習及び就労に積極的に取り組む。	生活習慣を確立させる。			
		基礎学力を身に付けさせる。			
		就労や学校行事等を通して、美山分校の生徒としての自覚をもたせる。			
		家庭との連携を深める。			
第2学年部	他人を思いやり、けじめのある学校生活を送らせ、学習に励ませる。	命・人権を大切にし、他人を思いやる心を育てる。			
		安全にバイク通学できるよう、交通規則の遵守を指導する。			
		けじめのある学校生活をおくり、基礎学力の充実をめざす。			
第3学年部	他人を思いやり、責任ある行動をとれるよう上級生としての自覚を育てる。	学校の中核となる自覚を持ち、責任ある行動をとる。			
		他人を思いやり、人権を大切にする意識を持たせる。			
		自らの進路希望を具体化させる。			
第4学年部	進路目標実現に向け、あらゆる活動を通じてよりよい人格の形成を促すことを目指す。	授業を大切にし、日常生活においても自覚ある行動をとる。			
		他人を思いやり、人権を大切にする意識を持たせる。			
		最上級生として、リ・ダ・シップを発揮し、下級生の手本となる行動をとる。			
		家庭との連携を強める。			
国語科	生徒の実態に応じた指導によって、基礎学力の向上を図る。	個々の生徒の実態に応じたプリントや副教材の準備等の工夫をする。			
		話す・聞く・書く・読む学習をバランスよく行い、随時国語常識学習も行う。			
		学習に遅れが生じる生徒には、年間を通して補充指導を行う。			
数学科	生徒一人一人の学びや考え方を尊重しながら、基礎学力の向上を目指す。	1年次は、高校数学で必要とされる計算を徹底して練習する。			
		1年次は中学との接続に配慮した授業を行う。			
		演習の時間を多く取り、受け身にならぬよう配慮する。			
		学習に遅れを生じる生徒には、補充指導を行う。			
保健体育科	生涯を通じて継続的に運動できる能力と態度を育てると共に、運動技能を高め強健な心身の発達を目指す。	学期に1回レポート作成を課題とし運動に対する知識理解を深めさせる。			
		2学期は耐久走に向けて持久走の授業に取り組む。			
		運動を通じて公正、協力、責任などの態度を育てる。			
		教科保健を通じ健康で安全な生活を送るための基盤を培う。 教科保健を通じて環境問題・健康問題を解決できる教養を身に付ける。			
英語科	中学校の学習を踏まえながら、四つの領域の言語活動の有機的な関連を図った指導を展開し、実践的コミュニケーション能力を育成する。	4技能(聴く、話す、読む、書く)をバランスよく学習させる。			
		生活に根ざした自己表現活動を積極的に取り入れる。			
		学習遅滞生徒に対して、年間を通じた補充指導を行う。			
		1年次は中学校の復習に力点を置き、基礎学力の向上を目指す。 オーラルコミュニケーションは音声言語に特に力を入れる。			
文書・情報管理	文書・情報を適切に管理する。	個人情報等を適切に保管・管理する体制を整える。			
		文書は適切に作成、起案、及び回議する。			
		成績処理のネットワーク化を進める。			
家庭・地域社会との連携	教育目標の達成を目指して、育友会・各種関係機関との連携、協力を進める。	家庭訪問等により、家庭と積極的に連携する。			
		地域社会・関係諸機関等の行事に参加するなど積極的に連携する。			
		育友会事業及び体育施設開放をはじめ、社会教育を支援する。			
次年度に向けた改善の					

(別記様式)

方向性